

— 経営理念 —

ともに挑み ともに繋ぐ

常にお客様目線で上質な価値を創出する

— 行動指針 —

私たちは、全ての仲間と手を取り合い、
創出する喜びを分かち合います。

私たちは、失敗を恐れず、
常にチャレンジャーであり続けます。

私たちは、お客様と誠実に向き合い、
信頼される存在を目指します。

私たちは、こだわりと思いやりをもって、
心地良さの実現を追求します。

私たちは、法とその精神を守り、
安心・安全なものづくりを約束します。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催

基準日	定時株主総会の議決権	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日

公告方法 電子公告
 公告掲載URL <http://www.fkkasei.co.jp>
 ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告
 できない場合は、日本経済新聞

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031 (フリーダイヤル)



Business Report

第108期 報告書

2018年4月1日～2019年3月31日



Segment Review

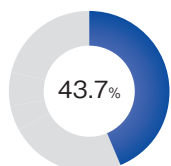
(単位：百万円)

コーティング事業



主要分野

自動車内装分野、自動車外装分野、
自動車電装部品分野、
容器関連分野、携帯電話分野、
家電分野、ホビー分野、
農業資材分野

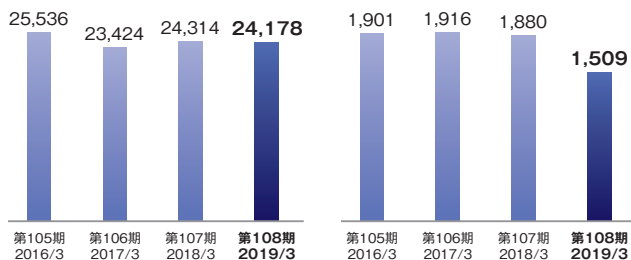


プラスチック用コーティング材を取扱うコーティング部門におきましては、主力の自動車向け分野において、国内市場では前年度をやや下回りました。海外においては、中国、欧州の需要が低調に推移いたしました。また、化粧品容器やホビー用塗料向けのスペシャルティコーティング分野においては堅調に推移いたしました。その結果、コーティング部門の売上高は前年度をわずかに下回りました。

売上高構成比

売上高
241億7千8百万円
(前連結会計年度比0.6%減)

セグメント利益
15億9百万円
(前連結会計年度比19.7%減)

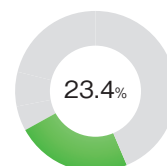


塗料事業



主要分野

外装建材分野、
内装建材分野、
エクステリア材分野、
住宅設備分野

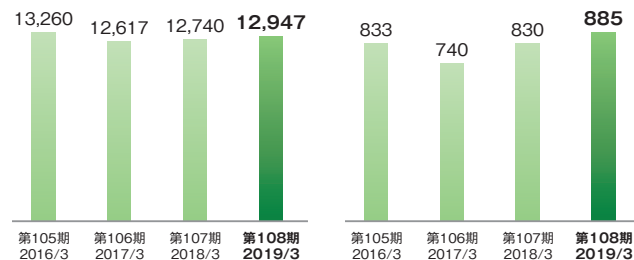


建築用塗料を取扱う塗料部門におきましては、リフォーム向け市場においては前年度と比べほぼ横ばいの売上高となりました。新築住宅向け市場においては、新商品の投入により需要が堅調に推移したこともあり、売上高は増加いたしました。

売上高構成比

売上高
129億4千7百万円
(前連結会計年度比1.6%増)

セグメント利益
8億8千5百万円
(前連結会計年度比6.6%増)

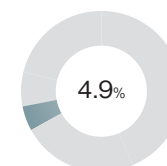


電子材料事業



主要分野

通信機器分野、
表示体分野、
家電分野、
車載用電子機器分野、
OA機器分野

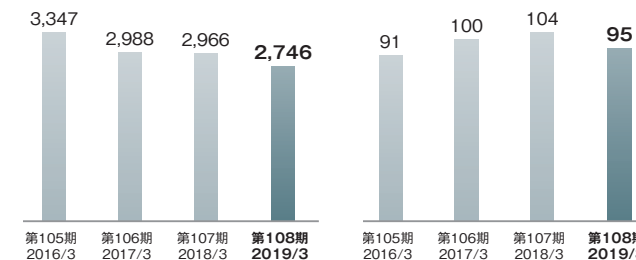


導電性ペースト材（『ドータイト』）などを取扱う電子材料部門におきましては、中国向けスマートフォンの減産やパソコン向け市場の需要の低迷などの影響により、売上高は減少いたしました。

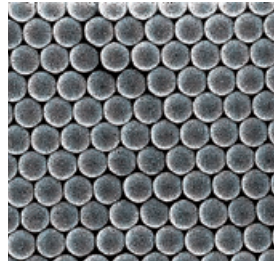
売上高構成比

売上高
27億4千6百万円
(前連結会計年度比7.4%減)

セグメント利益
9千5百万円
(前連結会計年度比8.5%減)



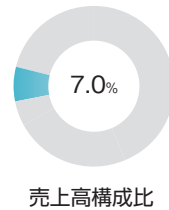
化成品事業



主要分野

トナー用樹脂分野、
電荷制御剤分野、粘・接着剤分野、
ディスプレイデバイス分野、
メディカル材料分野、
電子部品関連分野

機能材料やトナー用レジン、メディカル材料などを取扱う化成品部門は、粘着剤などの機能材料分野ではほぼ横ばいの売上高となりました。トナー用レジンを取扱う化成品分野は、既存品の需要が落ち込み売上高は減少いたしました。メディカル材料分野におきましては、検査薬の海外での販売や原料用ラテックスの販売が堅調に推移し、売上高は上伸いたしました。その結果、化成品部門の売上高は前年度をわずかに下回りました。



売上高

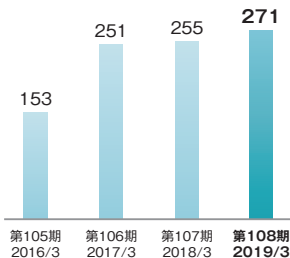
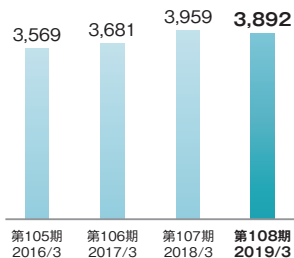
38億9千2百万円

(前連結会計年度比1.7%減)

セグメント利益

2億7千1百万円

(前連結会計年度比6.5%増)



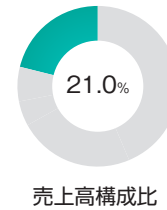
合成樹脂事業



主要分野

高機能光学材料分野、
工業用銘板分野、
産業資材分野

子会社藤光樹脂株式会社などが取扱うアクリル樹脂の原材料・加工品の販売におきましては、カーエレクトロニクス分野での需要は堅調に推移いたしました。液晶テレビ関連商品におきまして、需要が落ち込んだ結果、売上高は減少いたしました。



売上高

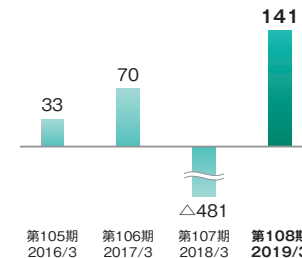
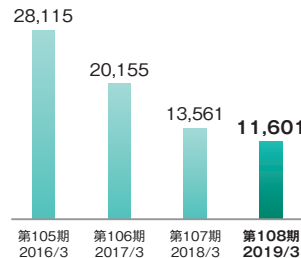
116億1百万円

(前連結会計年度比14.5%減)

セグメント利益

1億4千1百万円

(前連結会計年度比 -)



会社概要 (2019年3月31日現在)

会社名 藤倉化成株式会社

本店所在地 東京都板橋区蓮根三丁目20番7号

本社事務所 東京都港区芝公園二丁目6番15号

設立 1938年9月22日

資本金 53億5千2百万円

従業員数 連結 1,284名
単体 409名

連結子会社数 国内 4社 海外 15社

ホームページ <http://www.fkkasei.co.jp>

株式の状況 (2019年3月31日現在)

発行可能株式総数 84,000,000株

発行済株式の総数 32,716,878株

株主数 3,342名

TOPIC

「監査等委員会設置会社への移行のお知らせ」

当社はコーポレートガバナンスの充実を図るため、このたび監査等委員会設置会社へと移行することといたしました。

その特徴は監査等委員が取締役会での議決権を有することと、取締役に委任できる業務執行の範囲が広がることです。

これにより取締役会の経営課題への議論の集中、監督機能の強化、意思決定の迅速化を図りさらなる企業価値の向上に努めてまいります。

To Our Shareholders

株主の皆さまへ

株主の皆さまには格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当社第108期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）
の営業概況等につきご報告申し上げます。

2019年6月

当連結会計年度におけるわが国の経済は、輸出や設備投資の増加による企業収益の回復を背景に所得・雇用環境も改善され、個人消費も増加の動きが見られるなど、緩やかな回復基調で推移いたしました。海外におきましては、米国、欧州、アジア経済は引き続き好調を維持しておりますが、米中の通商摩擦や英国のEU離脱問題による情勢不安など、景気の下振れ懸念もあり、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような環境の下、当連結会計年度の売上高は552億7百万円（前連結会計年度比3.9%減）となり、営業利益は29億1百万円（同12.1%増）、経常利益は31億6千9百万円（同12.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は20億3千3百万円（同1.6%増）となりました。

当社グループにおきましては、コーティング事業におけるグローバルな事業展開を加速させており、米国、欧州、ASEAN諸国、中国及びインドにおいて現地法人を設立し、「藤倉化成グローバルネットワーク」として、製品の供給体制網の整備を行っております。更なる生産体制の強化を図るため、昨年インドに建設した工場も本格的に稼働を開始いたしました。今後も供給体制の整備に努めてまいります。

国内におきましては、当社のメイン工場である佐野事業所の化成成品工場のリニューアルを行いました。今後も佐野事業所のリニューアルを進め、国内での生産体制の強化、生産効率の向上を図ってまいります。また、技術開発に引き続き注力することによって事業領域の拡大を図り確実な収益基盤の確保に努めてまいります。

今後も株主の皆さまやお客様の信頼に応え持続的な成長を遂げられるよう製品の供給体制と技術開発に注力していく所存です。

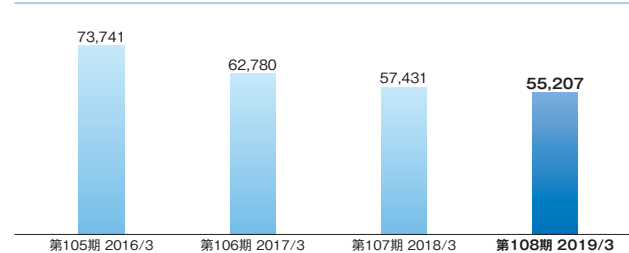
株主の皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 加藤 大輔

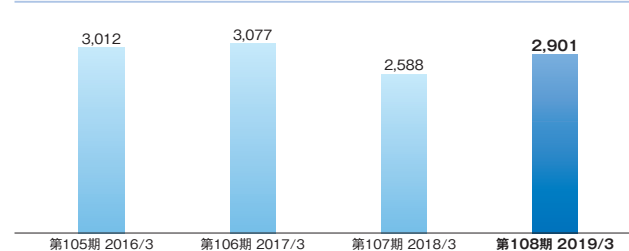
Financial Highlights

連結財務ハイライト

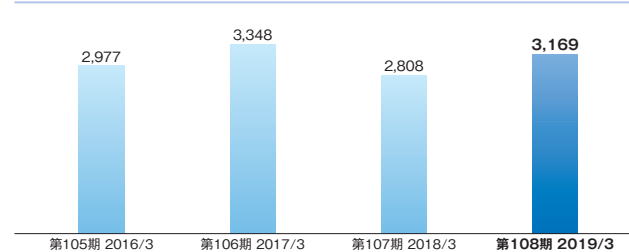
売上高 (単位：百万円)



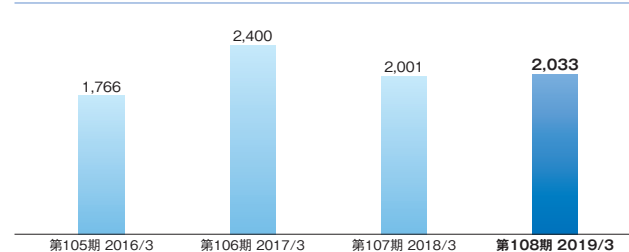
営業利益 (単位：百万円)



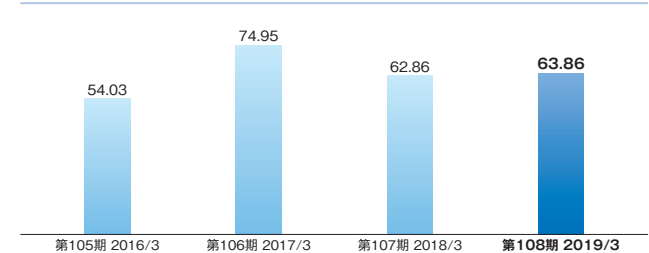
経常利益 (単位：百万円)



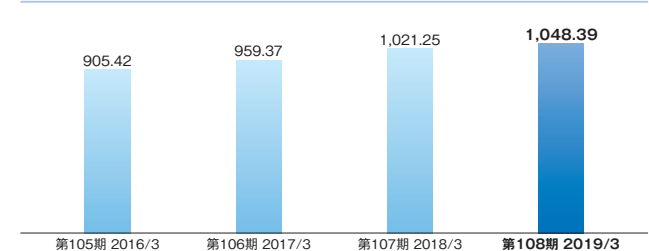
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位：百万円)



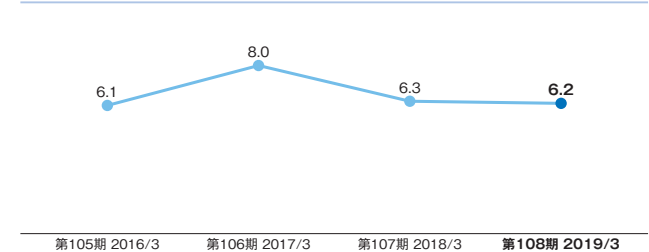
1株当たり当期純利益 (単位：円)



1株当たり純資産額 (単位：円)



自己資本利益率 (ROE) (単位：%)



総資産事業利益率 (ROA) (単位：%)

